

大野城市における共働事業提案制度を活用した事業

新高齢者支援事業（平成 27～29 年度）

テーマ型事業

- 提案団体・・・南地区コミュニティ運営委員会（現：コミュニティ運営協議会）
- 市担当課・・・長寿支援課、南地域行政センター
- 連携団体・・・NPO法人共働のまち大野城南コミ
- 事業概要

坂道が多く、高齢化率が高い南地区では、自分たちのまちを住みよいまちにすることを目的に、自助組織である南地区コミュニティ運営委員会が新しい高齢者支援の取り組みを提案し、市の長寿支援課と南地域行政センターが共働のパートナー、NPO法人共働のまち大野城南コミが連携団体となり、実行委員会を組織して平成 27 年度から実施された事業。

具体的な事業については、以下のとおり。

★買い物支援のふれあい市場事業★



軽トラックに食料品等を積み、南地区コミュニティ内の各地域を回って買い物に困っている人を支援する事業。

★高齢者移動支援事業「ふれあい号」★



週 2～3 回の買い物や通院ができる環境を整えるため、1 日 4 便運行し、地域住民の移動支援を行う事業。

★ふれあい食堂★



集まった地域住民が共に食事をつくり、食べ、片付け、交流を行う独居高齢者を対象とした事業。

★ミニベンチ設置★



高齢者が徒歩で散歩や外出した際に、途中で気軽に休憩が取れるようにするためのミニベンチを設置する事業。

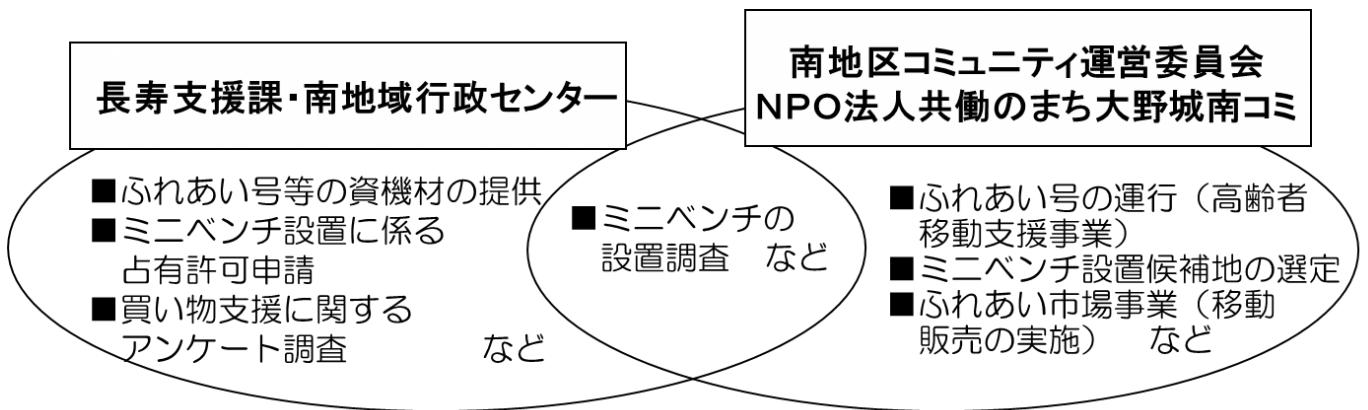
●共働の必要性

市内4地区には、異なる地域の特性及び事業があり、市が単独で、それぞれの地域に異なる対応を行うのは難しい。

そのため、地域と密接に関わっており、実情に詳しい南地区コミュニティ運営委員会と市が共働で事業を行うことで南地区の支援ニーズに応じたきめの細かいサービスを提供することができ、市が目指す「住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らせる共働のまちづくり」の実現につながる。

	南地区コミュニティ運営委員会	長寿支援課・南地域行政センター
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地元ニーズに即した実行力、課題把握力、企画力 ・地域とのネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種申請の許認可事務 ・関係団体との調整
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・(ベンチの設置等) 許認可が必要なものは団体のみでは行えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のニーズ把握が難しい ・地域毎の個別対応が難しい

●役割分担



●事業の成果

提案団体と市担当課の相互の関係性が高まり、共に活動することにより新たなネットワーク形成につながった。また、3年間の事業実施により、高齢者の多様なニーズを把握することができた。さらに、提案団体の事業の運営ノウハウが蓄積され、地域住民自ら地域の課題は地域で解決していこうとする意識醸成も生まれ、地域の互助活動(地域住民同士の取り組み)の基盤形成につながるなどの成果が生まれた。

●制度活用終了後の展開

高齢者移動支援事業「ふれあい号」については、これまでどおり、ふれあい号等の資機材の提供は市担当課が行い、運行を提案団体が行うという共働事業を継続していく。ふれあい市場、ふれあい食堂、ミニベンチの設置については、本事業を通して得たノウハウ、ネットワークを活かし提案団体が主体となって行っていく、市担当課は、事業実施に係る相談支援を行っていく。

- 提案団体・・・NPO法人チャイルドケアセンター
- 市担当課・・・子育て支援課
- 事業概要

出産育児を機に社会から離れ、孤立しがちな子育て中のママを対象に、社会復帰や地域コミュニティの新たな形成者となるための支援を行うことを目的に、NPO法人チャイルドケアセンターが提案し、市の子育て支援課と実行委員会を組織して平成 28 年度から実施された事業。

具体的には、漠然とした不安を抱えた子育てママに対して、一歩踏み出すための講座として託児付の講座が実施された。講座内容は、社会復帰のための講座や保育所を知るための特別講座、地域との意見交換会など。

講座終了後は、参加者による報告会などを行い、同じ悩みをもったママたちへ自らの体験談や事業参加を促し、社会復帰への周知啓発活動も併せて行われた。

★講座★



★地域との意見交換会★



★保育所見学★



★ぞうさん広場体験★

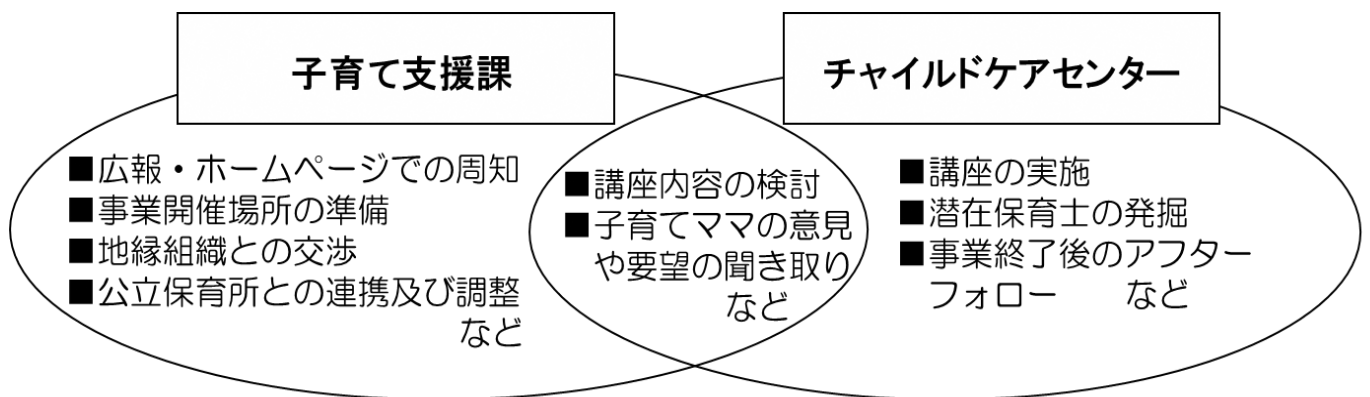


- 共働きの必要性

社会復帰や地域活動に意欲はあるが参加につなげていない子育てママたちの発掘・支援は、市としても課題であるが単独での実施は厳しく、委託業務だとしても、その後の地域参加につなげる部分については疑問がある。その部分を、提案団体の専門性や独自の人材、ネットワークを活かすことで、子育て中のママをブラッシュアップすることができ、講座終了後におけるお互いの事業での人材の確保につなげる事もできる。

	チャイルドケアセンター	子育て支援課
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てママとのつながりやネットワークがある ・日頃からママが考えていることや生の声が集まりやすい ・アフターフォローができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（区）とのつながりが深い ・公立保育所との調整ができる ・市内の様々な子育て支援情報の集約と発信ができる
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアなど人員確保が難しい ・保育所との調整が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てママの生の声が届きにくいいため、ママたちが本当に求めている内容に則した講座をつくりにくい ・受講後の受講生の状況が追いきにくい

●役割分担



●事業の成果

子育て中のママたちが、職場復帰・地域参加など最終的なゴールにたどり着くためには、「不安を解消する」、「孤立を防ぐ」というプロセスの必要性・重要性が分かり、一歩踏み出すための講座が有益であることが分かった。

3年間で81名の受講者がおり、職場復帰や地域活動への参加に繋がった人など様々な変化が見られた。その中で、子育てサロンのママ先生や、ファミリーサポートセンターのスタッフなど運営側として子育て支援に関わった人数は43名であり、その活動による受益者は約2,100名となっている。また、本事業の託児のボランティアとして参加された方も、本事業をきっかけとして市内の子育て支援事業に参加されるようになり、受講生以外にも波及効果が見られた。

●制度活用終了後の展開

本事業を通して、子育てママたちが一歩踏み出すために必要とする講座内容の検証ができ、ネットワークやノウハウが確立された。また、過去の受講生が運営に関わるようになったことから、提案団体のみでも実施可能な講座となったため、提案団体が主体となり、講座を継続していく。

市担当課は、子ども情報センターでの子育て支援の拠点づくりに力を入れ、地域とママが繋がる場をつくっていく。本講座に対しては、広報や保育所等との調整など側面的な支援を行っていく。

実のなるコミュニティガーデンづくり事業（平成 29 年度～）

テーマ型事業

- 提案団体・・・大野城市緑化推進協議会（緑進会）
- 市担当課・・・公園街路課
- 事業概要

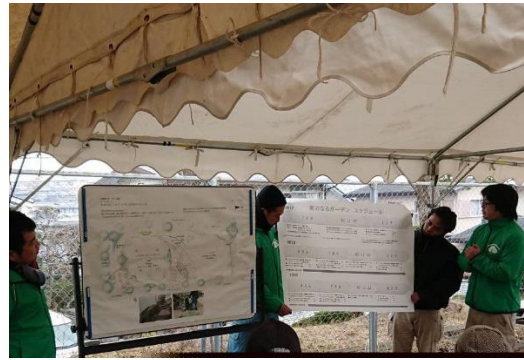
利用者の少ない公園を活用し、公園の利用促進や緑化意識の向上につなげ、市内を緑あふれたまちにすることを目的に、緑進会が提案し、市の公園街路課と実行委員会を組織して平成 29 年度から実施されている事業。

具体的には、ワークショップ形式で地元のニーズを聞きながら、地元の人と一緒にガーデンづくりを行っている。また、ガーデンづくりを通して、地元の公園に愛着を持ってもらい、今後、公園を維持管理する担い手を育成している。

★地域説明会★



★ワークショップ★



★ワークショップ★



★植樹イベント



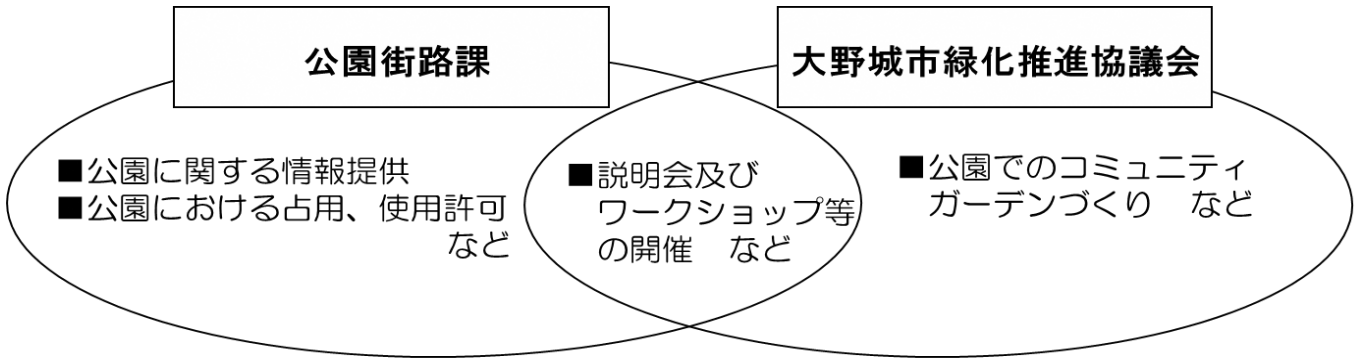
●共働の必要性

市として、公園の利用促進を図りたいと考えているが、多様化する市民ニーズに対応出来ていないため、未利用公園が多く点在している。緑進会としては、造園技術を活かした地域活動（緑化ボランティア）等を行いたいと考えているが活動する場所がない。

そこで、市内に点在する未利用公園の活用と緑進会の造園技術を活かした整備を行うことで、参加者の知識や理解を深めると共に、緑あふれる大野城市をつくっていくために共働を図る。

	緑進会	公園街路課
強み	<ul style="list-style-type: none"> 公園緑化などの専門的分野の知識・技術の提供 公園の図面作成や設計 	<ul style="list-style-type: none"> 公園管理の権限 地域や区とのつながりが深い（調整ができる）
弱み	<ul style="list-style-type: none"> （市の許可がなければ）公園を利用した活動を行うことができない 	<ul style="list-style-type: none"> 造園に対する細かな市民ニーズに対応できるほどの専門的な知識がない

●役割分担



●事業の成果（H30 末時点）

市内全区にアンケートを実施し、対象公園を決定。また、市民を対象としたワークショップ等を行いながら、地域住民とともに下地をつくり、植樹祭を行うなど、地域住民と共にガーデンづくりを行った。

ガーデンづくりを通して、地元の意欲のある担い手が5名見付き、実行委員会に同席してもらいながら、協議を進めている。

ワークショップ等で地元の方から意見をもらう際に、行政の強みである公園管理のノウハウと提案団体の強みである緑化に関する知識・技術を用いることで、地元のニーズを汲み取ることが出来ている。その成果として、地元の意向を汲んだ活動が展開できるようになってきており、地元主体の活動への移行の兆しが見られている。

●新高齢者支援事業実績

- 【H27】・ふれあい号 利用者数 7,834 人。
 ・ふれあい市場事業 実施回数 26 回。利用人数 195 人。
 ・ミニベンチ設置 設置検討
- 【H28】・ふれあい号 利用者数 8,421 人。
 ・ふれあい市場事業 実施回数 57 回。利用人数 303 人。
 ・ふれあい食堂 実施回数 4 回。参加人数 31 人。
 ・ミニベンチ設置 現地調査を行い、設置位置の選定を行った。
- 【H29】・ふれあい号 利用者数 9,089 人。
 ・ふれあい市場事業 実施回数 53 回。利用人数 353 人。
 ・ふれあい食堂 実施回数 5 回。参加人数 50 人。
 ・ミニベンチ設置 7 箇所に設置を行った。

●子育てママの活躍推進プロジェクト実績

- 【H28】・全 10 回託児付の講座を開催。受講者数 28 人。まどかぴあで開催。アフターフォロー会を実施。
 講座内容「アサーション・トレーニング（自己表現力を身につける）」
 ・アフターフォロー会を実施
- 【H29】・開催を地区コミュニティ単位（南、東コミ）とし、全 5 回託児付の講座を開催。受講者数 27 人。アフターフォロー会、報告会を実施。
 講座内容「アサーション・トレーニング（自己表現力を身につける）」
- 【H30】・開催を地区コミュニティ単位（中央、北コミ）とし、全 5 回託児付の講座を開催。受講者数 27 人。アフターフォロー会、報告会を実施。
 講座内容「コミュニティケーション術・ビジネスマナー」
 ※より実践的な講座内容に変更

●実のなるコミュニティガーデンづくり事業実績

【H29】

- | | |
|-----------------------------|----------|
| ・地域説明会 | 参加者：17 名 |
| ・第 1 回ワークショップ | 参加者：16 名 |
| ・母親の方々との意見交換会 | |
| ・第 2 回ワークショップ（報告会） | 参加者：18 名 |
| ・第 3 回ワークショップ（現地説明会、記念植樹祭等） | 参加者：38 名 |

【H30】

- | | |
|------------------------------|----------------|
| ・第 4 回ワークショップ（ブルーベリー苗植え） | 参加者：29 名 |
| ・第 5 回ワークショップ（クローバーガーデン整備） | 参加者：32 名 |
| ・第 6 回ワークショップ（収穫祭） | 参加者：104 名 |
| ・第 7 回ワークショップ（クローバーガーデン園路整備） | 参加者：15 名 |
| ・第 8 回ワークショップ（インターロッキング舗装） | 雨天中止（実行委員会で作業） |
| ・第 9 回ワークショップ（桜記念樹、花种植え） | 参加者：19 名 |